

大垣真宗学院 同窓会

同窓会報 第9号

発行日 2016年10月21日
事務局 岐阜県大垣市伝馬町11
大垣教務所内
電話 0584-78-3363
FAX 0584-78-3353
郵便局振替口座番号 0830-7-206305



継続は相続を生む



同窓会長 高垣 康平

さる六月十八日に開催された「第九回同窓会総会」において、印象深い光景に出会いました。それは、平成二十二年度に卒業された名古屋教区の女性がお二人のお子さんを連れて御参加されたのです。会場後列にお母さんと机を並べて行儀よく着席され、開会式からの約二時間、用意してきたお絵かきに夢中になっていたようでした。

懇親会ではお母さん特製のお弁当を囲み、雰囲気になじんだのか楽しいおしゃべりも聞こえてきました。そして、懇親会が盛り上がったころ、今度は平成二十年度卒業の長浜教区の男性が可愛い女兒を連れて会場に現れたのです。

この様子に、私は鷹橋賢由先生のお言葉を思い起こしました。卒業生が結婚したり、子供が生まれたりすると先生の御自坊へ度々やってこられるそうですが、先生は、「このようなことも受け入れられるような真宗学院の校舎が造りたい」と。今回の巡り合わせは、まさに先生の願いが実現したのだと感激いたしました。

さて、同窓会は早くも十年の節目を迎えようとし、次年度には役員改選を控えております。現在、十八名の役員（教区別 大垣八名、岐阜四名、長浜四名、三重一名、高山一名）がそれぞれ役割を担い、同窓会の趣旨に沿った事業に取り組んでおります。これも会員各位のご支援の賜物と感謝申し上げます。継続を力に会員相互の交誼を篤くし、未来の大垣真宗学院生の灯となるよう、聞法する同窓会であることを念じています。

合掌

学院の動き

☆飯山 等先生が大谷中・高の学校長に就任されました



大谷中・高等学校長
飯山 等先生

学院指導主任補の飯山 等先生が本年四月より、宗門の関係学校である大谷中・高等学校の学校長に就任されました。

飯山先生はご自坊の住職としての法務はもとより、学院の指導、大垣教区教化研究室室長兼専任講師、学院OBの学習会講師など、多方面でご活躍されておられます。今後とも、ご指導のほど宜しくお願いいたします。

【略歴】一九五〇年生まれ。大垣教区第九組西向寺住職。金沢大理学部卒、大谷大大学院博士課程満期退学。七四年より大谷中高に勤務。七八年より大垣真宗学院指導

☆二〇一六年度新入生十八名を迎える

本年度は土曜昼間十三名、夏期集中コース五名に新入生を迎えました。教区別では、大垣九名、長浜四名、京都、高岡、岐阜、名古屋、山陽が各一名です。十月現在の在学生(休学除く)は、夏期

十四名、土曜昼間十三名、土曜夜間二十一名です。

◇訃報 一色 順心先生

一九八三年より仏教学の指導を担当しておられました一色 順心先生(岐阜)が本年六月六日にご逝去されました。一色先生は中国仏教が専門で、本年三月に大谷大を退職され、大谷大名誉教授に就いておられました。著作に『唐復礼撰十門弁惑論注解』(平楽寺書店 二〇〇六年)があります。

同窓会の動き

☆卒業生十六人が同窓会に入会

二〇一五年度は土曜昼間、夏期集中コースから計十六人が卒業され、卒業式と同時に同窓会にご入会いただきました。

新会員は次のみなさんです。これからも宜しくお願いたします。(敬称略)

▽大垣 三輪 真人、山下 晃司、稲葉 基明、山田 晃潤、熊谷 裕子、柳ヶ瀬 健介、日野 美喜子、古川 恒子▽福井 朝倉 文彦▽岐阜 小島 安沙、戸田 秀見▽岡崎 大河内 智仁▽加納 勅▽長浜 山口 敦子、藤 環、山家 賢

☆外部掲示板を寄贈

同窓会から、大垣真宗学院校舎「呼応学舎」に

掲示板を寄贈しました。

学習環境整備のために同窓会が学院へ寄託した中から購入されたものです。設置費用は二十七万八千円。玄関右側に設置され、夜間は点灯いたします。呼応学舎の外観が一層校舎らしくなりました。



新たに設置された掲示板

☆第九回 同窓会総会の開催

六月十八日、呼応学舎二階研修室で開催され、各地から集まってこられた会員と先生方計三十九名に出席いただきました。

物故者追弔会に続いて、同窓会顧問で学院指導主任の鷹橋賢由先生からごあいさつをいただきました(要旨をご覧ください)。二〇一五年度の事業報告、決算報告、二〇一六年度の事業計画案、予算案はいずれもご承認いただきました(八頁参照)。また、「ビハール大垣」で活動されている沼口医院の沼口諭院長(二〇一一年卒、大垣)から同会の活動報告をしていただきました(要旨をご覧ください)。

総会後の特別講義は、大城邦義先生(大谷大准教授)に、「宗教とは何か(善導独明仏正意)」と題してお話いただき、参加者一同、真宗の学

びへの意欲を新たにしました。(要旨は四〇六頁)。
総会終了後には、親会がもたれました。小さな
お子さんを連れてのご参加もあり、和気あいあい
と親睦を深めました。また、一人ひとりが近況な
どを報告、和やかなひとときとなりました。
みなさんも来年、是非ご参加ください。



◇鷹橋 賢由先生あいさつ

随分前にインド旅行しており、私たちの御本尊
は阿弥陀様なのに、なぜお釈迦さまをインドに訪
ねるのでしょうかって質問されたんです。どう答
えたか忘れましたが、その質問が頭にずっと残っ
ていました。最近、善導大師の『観経疏』を読ん
でいて、善導さんは南無阿弥陀仏を一字づつ翻訳
されて、南無阿弥陀仏は「帰命無量寿覚」である
と。しかも無量寿は「法」、覚は「人」、人法合わ
せて南無阿弥陀仏、帰命無量壽覚だと、こういう
言い方がしてあるんです。両方が一体となってお

るんだと、何か私自身、納得できた気がしてう
れしく思っております。

それから、ずっと気になっていたのですが、
「謹んで浄土真宗を案ずるに、二種の回向あり」
(聖典一五二頁)とあります。これも善導さんの
「二河譬」を読むうちに気付かされたのですが、
如来の召喚の言葉がありますよね。「汝一心に正
念にして直ちに來たれ、我よく汝を護らん」(聖
典二二〇頁)と、西の岸から阿弥陀さんが発せら
れている。その阿弥陀のはたらきをこそ回向とい
うのであろうと。いいですか。簡単に言いますと、
「汝一心に正念にして直ちに來たれ」が往相回向、
「我よく汝を護らん」というのが還相回向だと。
こういうこと言っている人はいないんですよ。で
も間違いない。私はそう思っています。これは私
の五十年の真宗の学びの中で、数年前に初めて気
づかせてもらったことです。



もうひとつ。南無

阿弥陀仏と御信心の
話です。とかく南無
阿弥陀仏を真実信心
をいただく手段だ
という受け止めが多い
のですが、最近、信
國 淳先生のものを

読んでおりましたら、「スズメがチュンチュン、
カラスがカアカアと鳴くように、私たちは南無弥

陀仏、南無阿弥陀仏と申しましょう」とあって、
私はこれだっと思いました。つまりね、何が分かっ
たかと言いますと、「何にもならん念仏、何かの
ために念仏するのではなくて、称えても称えても
何にもならんお念仏、そのお念仏を称えられる身
になるう」。私は今、そう思っています。

◇沼口 諭さんの活動報告

「ビハール大垣」では、宗教者だけではなく医
療者、一般市民が一緒になって生と死を考えよう
というところで、「生と死を考える連続講座」を開
催しています。ビハール活動をされている医療関
係者や学識者、宗教者をお招きして、見送りや寄
り添いなど「生と死」についてお話しを聞き、そ
の講演録をもとに会員で学習会をもったりしてい
ます。



六月には初めて大

垣市民病院内で、グ
リーフケアに造詣の
深いシスター、高木
慶子さんにお話し
いただきました。そ
の際のアンケートで、
医療関係者の間でも

宗教への関心が高いことが分かりました。十月か
らは第三期がスタートしますので、ぜひご参加下
さい。